大人が持つ力①【保護者編】
子どもの権利ってなんだろう？

めやす 90分

ねらい

- 大人と子どもの構造的な力関係について気づく。
- 大人がどんな「力」「資源」を使って「適切」「不適切」に子どもに関わっているか、あるいは「力」を放棄しているかなどを具体に考え、「虐待」と「教育」「養育」の違いについて考える。

キーワード

子どもの権利とエンパワメント・子どもと大人の構造的な力関係・虐待・大人の責任

準備物

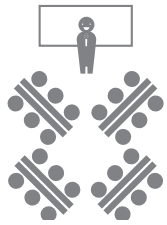
- ワークシート1人1枚　•資料1人1枚
- のり付きふせん紙（7～8cmの正方形）1人10枚程度
- 模造紙 各グループ2枚　•マーカーセット 各グループ1セット　•ホワイトボードと専用ペン（黒板も可）

参加人数 10～30人

大人が持つ力①は、主に保護者を対象に行うとよいが、支援者を対象にも行える。

プログラムの流れ

2分	①	導入	●ねらい、進め方
8分	②	ウォーミングアップ	●グループ分け、自己紹介
5分	③	大人が持つ「力」「資源」	●「力」「資源」の洗い出し
55分	④	子どもの権利と「力」「資源」の使い方	●欲求に対しての「力」の行使と放棄、子どもの気持ち
10分	⑤	「虐待」と「教育」「養育」の違い	●「虐待」と「教育」「養育」の違い
10分	⑥	まとめ	

時間	実際の詳細な手順	ポイント
スタート	**1 導入** 1分 今日は「子どもの権利と大人の責任」について考えます。かつて子どもだったはずのわたしたち大人は、その頃感じていた大人への安心感や理不尽な思いをいつの間にか忘れてしまっています。子どもは大人に対して圧倒的な弱者ですが、守られるべき存在であるのと同時に、権利の主体者でもあります。もっとも日常的な子どもの欲求に対して、大人が持つ「力」や「資源」とは何か。どのようにその「力」や「資源」を使うべきなのか、または使ってはいけない「力」とは何かなど、みなさんと一緒に考えていきます。	会場の設営 • 会場は最初からグループ別に机とイスを並べておく。 •【机とイスの配置例】  ※会場の形によっては、ファシリテーターがやりやすいように適宜変更するとよい。

1分

●ルールについて説明し、ホワイトボードの隅に板書する。「参加・尊重・時間・守秘」

2分経過

2 ウォーミングアップ

1分

●4～6人程度のグループに分ける。

7分

まず、グループ内で、自己紹介をします。名前、所属、「子どもの頃に戻って、親に言いたいこと」を一言ずつ1人1分以内でお願いします。

10分経過

3 大人が持つ「力」「資源」

説明1分　グループワーク4分

ワークシートに書かれているシート1「子どもの「権利」と「力」の行使」の表を模造紙に書き写してください。
ここに8歳(小学2～3年生)の「子ども」がいるとします。大人がその「子ども」よりたくさん持っている「力」や「資源」にはどんなものがありますか。先ほど話していただいた『親に言いたいこと』を思い出して考えてみてください。ふせん紙に書いて模造紙の大人が持つ「力」「資源」の所に貼ってください。ふせん紙1枚に1つの言葉を書いて、貼りながら、出された意見をグループで共有してください。

●ファシリテーターが「力」や「資源」に関する言葉(例えば「経済力」)とふせん紙に書いて、大人が持つ「力」「資源」の所に貼る。
●ふせん紙10枚程度、ワークシート、資料を各人へ配付する。
●模造紙２枚、マーカー１セットを各グループに配付する。

15分経過

4 子どもの権利と「力」「資源」の使い方

説明5分　グループワーク45分　説明5分

では、配付した資料を見てください。

20分経過

●資料の1番・2番を使って、「子どものエンパワメント」「子どもの権利条約」などについて説明する。

20分

次に、子どもの権利を保障するために、その「力」「資源」を使ってやるべきことについて出してください。

- ルールの説明についてP69を参考に伝えるとよい。
- 他にルールを付け加えたい参加者がいたら付け加える。

- グループ分けする際、親しい人同士のグループにならないように配慮する。
- 参加者が自分たちだけでグループになるのが難しそうだったら、ファシリテーターがグループ分けをする。
- まず、例としてファシリテーターが自分の話をする。その時に後のワークにつながる話題を提供すると効果的である。
- グループの人数にばらつきがある場合、早く自己紹介が終わったグループにはフリーで話をしてもらう。

- ふせん紙への記入は、単語でいいので思いついたものをどんどん書いてもらう。マーカーを使って大きな文字で書くことを勧める。

ここでいう権利とは、子どもの権利条約に謳われている「生存」「保護」「発達」「参加」の権利です。その権利を侵害する、やってはいけないことや、まったくその「力」を使わなかった状態(放棄)も考えてください。18歳未満の子どもを対象に具体的にイメージして考え、話し合ってください。年齢を絞った方が話し合いやすければ、それでもかまいません。話し合った内容を模造紙に書いてください。

- ホワイトボードにシート1の表を書きうつしながら、資料を使って説明を行うと分かりやすくなる。
- まず、「経済力」などの例示を使って、参加者全員で「やるべきこと」「やってはいけないこと」について考えるとグループワークに入りやすくなる。

15分

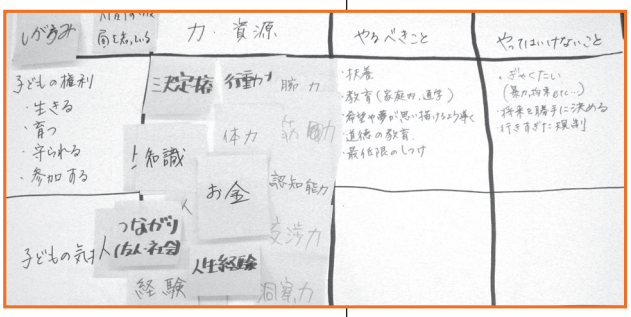
次に、大人の「力」や「資源」のそれぞれの使い方で、「子ども」がどのように感じ、考えるかについても話し合って書いてください。

10分

●グループからの発表とまとめ

各グループから、発表してください。時間は各グループ30秒程度でまとめてお願いします。

実際に作成された模造紙の例



65分経過

5分

●グループからのまとめなどにもふれながら、資料の3番を使って虐待の種類や現状について説明する。

子どもの権利を考えるとき、当事者である子どもの「参加」を保障することが忘れられやすいです。子ども自身が権利の主体者であることを忘れないことが大事です。

- 虐待は、英語で“abuse”といい、力の濫用・誤用という意味。このワークを通して、虐待の意味を考える。資料として、虐待の種類や検挙数などをプリントにして、配付するとより効果がある。

70分経過

5 「虐待」と「教育」「養育」の違い

10分

次に、これまで話し合ってきたことを踏まえて、「虐待」と「教育」や「養育」の違いについて話し合ってください。話し合った内容はシート2のように模造紙に書いて、後で発表してください。

80分経過

6 まとめ

10分

各グループから、発表してください。時間は30秒程度でまとめてお願いします。

- グループからの発表はグループ数を考慮して、時間配分を考える。

子どもの育ちには、大人の関わりが必要です。大人が持つ「力」「資源」を濫用したり、誤用したり、または使わなかったりすることがないよう、どのような家庭背景の子どもであっても、大人の連携によって育ちを支援できる体制をつくっていくことが大切です。